

令和6年度 自己評価及び学校評議員評価書

27012

令和7年3月25日
札幌市立西野小学校

1 本年度の重点目標

生き生き活躍する6年生を、6（9）年間で育てる学校 ～学校創りは日々の授業から～

2 本年度の重点

1 学ぶ力の育成	<考える子どもを育む授業>○教室を見合う・授業を見合う ○課題解決的な学習の推進 ○課題探究的な学習の充実 ○個に応じた指導の徹底 ○キャリア教育 ○「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実 ○ICTを効果的に活用
2 豊かな心の育成	<やさしい子どもを育む関わり>○命を大切にする指導 ○読書環境の充実 ○体験活動の充実 ○道徳教育の更なる充実 ○通常の学級と特別支援学級の交流
3 健やかな体の育成	<強い子どもを育む環境づくり>○運動の日常化 ○命、健康教育の充実
4 地域とつながる	<地域の中の学校>○小中一貫教育の取組・幼稚園や保育園との連携 ○安全教育

3 自己評価結果に対する学校関係者評価 <◎、A:十分達成 ○、B:達成 △、C:不十分>

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価と今後の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
自ら学ぶ力	①子どもたちは、自分の考えをはっきり話している。	A	○保護者は92%、児童は83%が「できている」と回答。教職員は84%。 ○日々の授業や生活の中で、交流場면을積極的に設定したり、全員発表や指名発表、クロムブックでのまとめや交流などを効果的に行ったりして、話す・考える機会を増やし、力を付けていく。	A	A
	②子どもたちは、自分から学習や当番活動に取り組んでいる。	A	○児童90%、教職員は95%、保護者は約75%、学校と家庭で違いが大きい。 ○「自分から」という意識を大切にし、工夫や発想を生かして取り組む向上心を育んでいく。家庭学習においては、取組時間を決め、学習に対する課題意識をもてるようにしていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		○家庭学習は「まずは宿題をやってから遊ぶ。」などの約束も有効。 ○学びに対して「楽しさ」を感じられるようにすることが大事である。 ○「定着」はどこですかという、やはり家庭での学習である。基礎・基本の定着を大事にしていくとよい。			
共に生きる力	③子どもたちは、友達や自分に関わる人に自分からあいさつをしている。	B	○児童は94%、保護者は86%、教職員は74%ができていると評価。 ○学校での挨拶向上に向けた取組を土台として、地域や家庭でも挨拶ができるよう継続した指導を行っていく。	A	A
	④子どもたちは、安全に気をつけ、ルールを守って生活している。	A	○児童と保護者ともに90%以上ができていると評価。教職員も89%で高い結果。 ○校内でのルールの徹底のほか、登下校時の歩道を歩く指導を徹底する。併せて、日常生活における「安全」「危険」に対する子どもの感度を高める指導を行っていく。	A	A

学校関係者評価委員による意見		○道路を歩いたり広がって歩いたりする児童が大きく減り、歩道をしっかり歩くと児童が増えた。今後も大切にしてほしい。			
強くたくましい体	⑤子どもたちは、進んで運動や体力づくりをしたり、外で遊んだりしている。	B	○児童は85%、保護者78%ができていると評価。教職員の評価は89%。校内で様々な運動ができる場を設け、子どもたちが楽しみながら体力づくりを行えるようにした。 ○これからも全校で「1日1回外遊び」に取り組む。教師も一緒に遊ぶことを大事にする。また、放課後の遊び方や運動機会の確保について懇談会などで話題にし、意欲付けを行う。	A	A
	⑥子どもたちは、健康に気をつけて生活している。	A	○児童は92%、保護者は86%、教職員は95%ができていると評価。 ○手洗い・うがい、教室の換気など予防に向けた取組を徹底し、今年度は感染症が流行していない。また心のケアとして「シャボテンログ」を活用し、子どもの「声に出ない声」をしっかりとらえ、対応していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		○給食時の教室の換気や手洗いの徹底が効果的である。			
豊かな心の育成	⑦子どもたちは、進んで本を読んでいる。	B	○児童の75%、保護者の57%ができていると回答。前期から5%向上した。開放図書館もその一役を担っている。 ○今後も開放図書館との協力、学級活動部の図書指導、先生方による読み聞かせ放送、委員会活動での「読書」の取組など様々な工夫により本に親しむ機会を増やしていく。	A	A
	⑧子どもたちは、「ありがとう」の気持ち伝えてる。	A	○児童、保護者、教職員ともに90%以上ができていると評価。 ○これからもあらゆる場面で、相手を意識する心を育み、温かいふれあいの場を充実させるなど実感の伴った指導を続ける。	A	A
学校関係者評価委員による意見		○読書の楽しさを味わう機会を増やしていくとよい。 ○感謝の言葉がたくさん出ていることがとてもよい。			
地域連携・環境	⑨子どもたちは、地域の方々が教えてくれることをしっかり聞いている。	A	○児童、保護者共に85%以上ができていると評価。和太鼓の指導をはじめ、様々な場面で地域の方にお世話になった。 ○コミュニティスクールを見据え、第1回評議員会を同中学校区で行った。次年度はさらに一歩進めた取組を行っていきたい。	A	A
	⑩子どもたちは、地域の行事に参加している。	B	○季節ごとの地域行事に盆踊りも復活した。今後も、学校と地域が連携して多くの子どもたちが参加できるようにしていきたい。児童71%。保護者61%。	A	A

学校関係者評価委員による意見		○地域行事も復活し、少しずつ地域行事に参加する児童が増えていた。しかし、行事の内容と今の子どもが求めるものとのマッチングを考えていく必要がある。また習い事をやっていない子が少なく、土日に参加することが難しい状況もある。			
学習・生活・いじめ対応	⑪子どもたちは、楽しく学校生活を送っている。	A	○児童、保護者、教職員全て91%以上が楽しんでいると評価。 ○一人一人の思いにしっかり寄り添い子どもが安心感をもてるようにし、100%を目指して日々の学習や生活を充実させていく。日常の授業改善、相談支援体制にも取り組んでいく。	A	A
	⑫子どもたちは、学校で困っていることがある。	A	○89%が困っていないと回答しているが、11%が困りを抱えている。この困りをしっかり受け止め、必要な支援を行っていく。(シャボテログ、いじめアンケートの活用)	A	A
	⑬子どもたちは、いじめや意地悪・悪口を許さないと考えている。	A	○児童94%、保護者97%、教職員95%と全て高い数値を示しているが、ふざけていたずらをしたり、乱暴な言葉掛けがあったりする場面もまだある。今後も、一人一人の意識をより高める指導を継続していく。	A	A
	⑫子どもたちは、毎日家庭学習をしている。	A	○児童は80%、保護者は78%、教職員は89%ができていると評価。家庭学習ノートの紹介や家庭学習貯金など、児童の実態に合わせて工夫された取組を進め、保護者とも連携を図って充実を図っていく。 ○学力テストや日々の授業の様子から、令和6年度のテーマを「習熟」と設定し取組を進めてきた。次年度のテストをさらに分析し、効果を検証していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		○子どもが楽しく学校に通っていることはとてもよい。困りを抱えている児童には手を差し伸べることで、自己肯定感を高めていくことができる。 ○学校内外で、人を傷つける言葉が使われている場面を見ることがある。自分が使っている言葉の意味を考える指導が大切。			

【その他の意見】

- 近隣地域で多様な習い事があるようだ。(チアリーダー、ダンス、一輪車など)
- コミュニケーションに課題を抱える子どもが、低年齢層で4倍に増えている。
- SNSの課題が大きい。保護者の目が届かないことも多く、表面化したときには大事に至っていることも多いため、注意が必要である。